

赤沢左俣

ろうか。一段目は気持よくシャワークライミングする。二段目、三段目とも快適に登れる。あとはナメや小滝が続いて、8時50分二俣となる。

右に進んで10分程歩いた所で沢からあがり、右にやぶをこいで10分程で車道に出る。(記・

【タイム】 出合(6:15)→二俣(6:35)→沢終了(9:00)→車道(9:10)

赤沢右俣(下降)

1983年7月24日

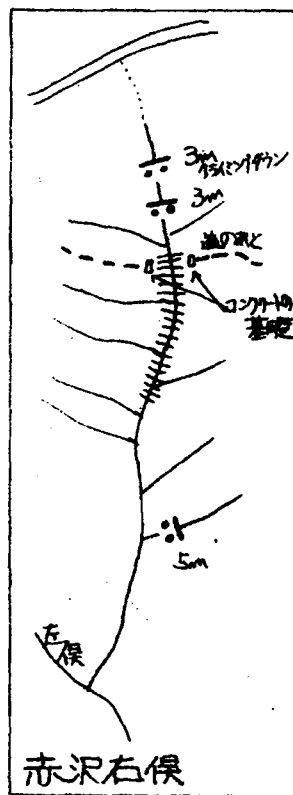
L

下降を始めたらすぐ小滝。慎重にクライミングダウンする。そのあともう1つの小滝を越える。まもなく道のあとが沢を横切っている所に出た。甲子峠に向けて、昔はたくさんの人や馬が通った道のようなが、今は通る人としてなく、荒れるにまかされている。

ここからしばらくは川床が岩盤となり、ナメが続いていて気持よく歩く。しかし、このあと全然滝もないままで、二俣に着いてしまった。2時間で下降終了。

(記・

【タイム】 下降開始(9:50)→終了(11:50)



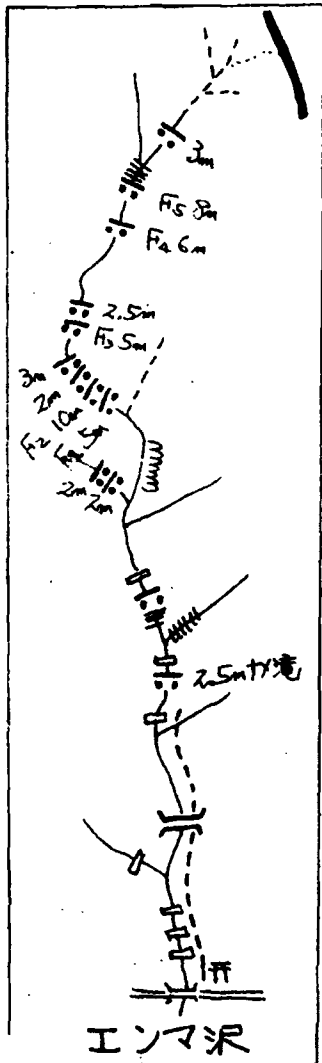
赤沢右俣

エンマ沢

1983年7月24日

L

事前の予想では、長い時間かかるだろうということだったが、滝が少なかったことや、難しいルートがな



かったことで、縞石沢の下降を含めて4時間で終了した。

6:20入溪。しばらく沢ぞいの道を歩く。水量も少ない。ずっと平凡な沢歩きが続く。途中でちょっと変わったことといえば、狸を見たことである。

7:20 10mと5mの滝が続き、シャワークライミングを楽しむ。7:43大岩から垂直に流れる8mの滝がある。足場も悪く、岩ももろいので、慎重に捲く。

8:15エンマ沢の遡行を終え、尾根に出て一休みする。

(記・)

[タイム] 出合(6:20)→遡行終了(8:15)

縞石沢(下降)

1983年7月24日

L

8:35下降開始。7mの斜瀑を過ぎた所で縞石沢の本流に出る。この沢は非常に平凡な沢である。滝など1つもないままに終わってしまった。尖戸さんが途中で大きなサルノコシカケを収穫する。下降終了8:45。

(記・)

[タイム] 下降開始(8:35)→縞石沢本流(9:00)→縞石橋(9:45)



吹上沢

1983年7月24日

L!

甲子温泉前を通り、本谷の仮橋を渡って白水沢へ。3mと10mの2つの滝を越えると、すぐ吹上沢が右から合流している。出合は狭く、締まり感の沢である。

5分程でF1、ナメ滝である。高さが6m位、長さが20m位はあろうか。そのあとも約5分間隔で小さな滝が続く。F3のトイ